

フィリピンに起業しよう

宮城県仙台第三高校

G5班

1. 背景・目的と仮説

起業したい、経営を学びたい

↓
経済について調べるうちに社会問題との関係に興味を持った。

↓
世界で大きな経済問題を抱えている国を探した

↓
フィリピンで大きな経済問題が発生していると知った

↓
フィリピンで起業して雇用し利益と社会問題の解決との両立を図る企業を造りたい

まとめ・結論

目先の利益ではなく将来を見据えた教育、指導を重要視する

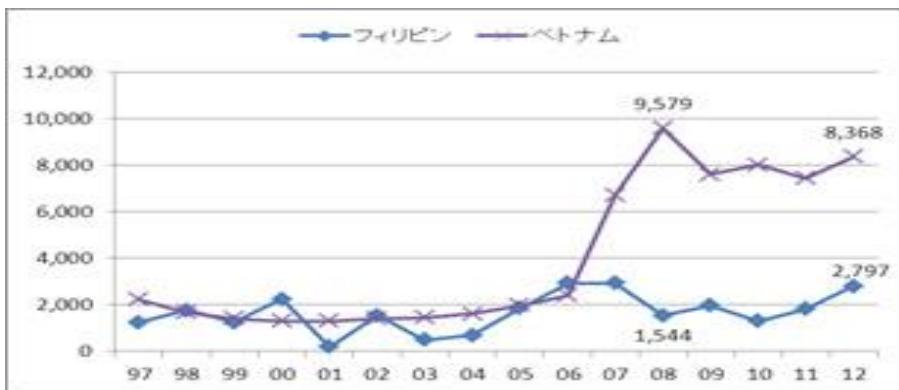
結果・考察

起業と社会問題を関連付けた際、今現在の社会問題を解決する糸口として電子産業を通じた地域に根付く企業の展開をする必要があると感じた。また起業した際のビジョンとして海外の有名企業との関係を持つことが結果として利益を生み、経済格差や雇用数の問題に対しての直接的な解決方法になるのではないだろうか。

フィリピンが抱えている問題点とは

- ・産業が発達していない。BPO産業を取り込めない
- ☐個人零細商店が市場を占めている
- ・失業者が多い、雇用が少ない
- ➡地域に直接影響を与える企業がない
- ・電子産業に関しての輸出額が少ない
- ➡材料の輸入元が少ない

世界からの直接投資額推移
(国際収支ベース 単位:百万ドル)



この問題を解決することでみられる効果とは

「BPO産業の増加」

ネームブランドがある企業が入るため
地域経済が活性化する

「雇用の増加」

所得の増加により個人の支出額が
上がり国内の経済が発展

「電子産業の発展」

インターネット環境の普及により
世界とのコミュニティが築ける

「起業と関連付けたとき私たちはどのようにアプローチしていくべきか」

- ・フィリピン国内の嗜好や国民性を理解する
- ・業種にかかわらず電子産業に焦点を当てた企業作りを目指す
- ・経済格差の解決に向けて技術指導などの将来を見据えた企業づくりを目指す

参考文献

<https://www.yamada-global.com/report/philippines-advance/>